



地教委からの提言



**「自分を大切に 人を大切に
ふるさと宝塚を大切に
する人づくり」をめざして**

宝塚市教育委員会
教育長 五十嵐 孝

1 本市の教育環境

宝塚市は大阪、神戸に30分圏内の歌劇のイメージに代表される良好な住宅地として発展してきました。昭和29年、市制発足時4万人台であった人口は平成25年に約23万人にまで増えてきましたが、現在は微減傾向で、少子高齢化が顕在化し、教育を取り巻く環境は大きな転換期を迎えています。

児童・生徒数は、小学校では昭和57年に2万人強、中学校では昭和61年に9千3百人強とピークを迎えましたが、現在は、ピーク時の6割程度まで減少しています。

市内には公立小学校24校、中学校12校、特別支援学校1校がありますが、来年度小学校2校を統合するほか、市内北部の小学校では初めての複式学級が始まります。一方で、千人を超える大規模小学校が2校あり、全市的に小学校の適正規模配置が大きな課題となっています。また、小学校と中学校の校区が不整合であり、一つの小学校から複数の中学校に進学しなければならない地域が多くあります。

このような教育課題を解決するため、昨年宝塚市教育環境審議会を設置し、①本市の小学校と中学校における通学区域の設定（調整・

整合等）②本市における教育環境（義務教育学校（小中一貫校）の取組）について諮問しました。今後答申を得て、教育環境の整備に努めていきます。

2 教育委員の活動

教育委員会の構成は教育長と教育委員4名で、教育長（元学校長）以外、委員は皆、教育以外の分野で活躍をしています。月2回の定例会では様々な観点から活発に議論が展開されています。教育委員会制度ではレイマンコントロールが想定されていますが、本市はこれに適うものであるといえます。

（1）教育委員会の事務執行等の評価

地方行政の組織及び運営に関する法律に基づく事務執行等に関する評価は、事務局職員が事務的に行うのではなく、教育委員自らが外部評価者（学識経験者）の意見を活用しながら行っています。

評価にあたっては、毎年度、教育長と教育委員、外部評価者が、事務局に対して施策に関するヒアリングを実施しています。

（2）第2次宝塚市教育振興基本計画策定

「自分を大切に 人を大切に ふるさと宝塚を大切に
する人づくり」を基本目標として、本年度から計画期間10年の『第2次宝塚市教育振興基本計画』を策定しました。

通常、行政計画の策定においては、学識経験者を活用した審議会方式による諮問、答申という方法が一般的ですが、本計画は教育委員自ら

が策定に当たりました。第1次計画の検証から始まり、第2次計画の重点課題や施策体系、計画の骨子など、教育委員による検討会を重ねるとともに、外部の目として知識経験者や公募市民からの意見聴取も行いました。

(3) 学校訪問

平成28年に市立中学校でいじめによる重大事態が発生しました。同じことを2度と起こさないために「宝塚市いじめ問題再発防止に関する基本方針」を策定。この中で示された種々の取組を実践するため、教育委員会及び各学校がそれぞれ行動計画を策定しました。この取組状況を検証するため、教育委員が検証委員（教育の専門家、弁護士）とともに学校を訪問し、教職員等と面談することで、学校の取組や学校の雰囲気、児童生徒の様子などを確認しています。

なお、この学校訪問は市内全校を予定しており、聞き取り結果を都度、教育委員会で報告するとともに、総合教育会議においても情報共有しています。

(4) 教育委員と語ろう

本市の教育を市民と一緒に考える機会を持つために、教育委員が市民と意見交換をする「教育委員と語ろう」を開催しています。過去のテーマとして「地域と学校の関係」「中学校区の見直し」「子どもの居場所づくり」「いじめ、体罰」など多岐にわたっています。この「教育委員と語ろう」は、平成26年から始まり、現在までに9回開催しており、今年度も3月上旬に開催します。

今後も教育委員の活動が市民や地域に見え

るよう、市役所を出て地域の施設で行う移動教育委員会にも取り組みます。



教育委員と語ろう

3 いのちの大切さを知るために

本市教育の基本目標を考える上で、自己有用感を持ち、自分と同じように他の人のいのちと存在を大切に考える子どもの育成が大事です。教育委員会では、この視点に立って「生きる力」をはぐくむ取組を行っています。

(1) 生命の尊さ講座

全中学校を対象に産婦人科医等を講師に「生命の尊さ講座」を開催。各講師の異なるアプローチから、いのちの大切さを子どもたちが実感できるようにしています。さらに乳幼児とのふれあい体験として、実際に赤ちゃんを抱いたり、妊婦のお腹をさわらせてもらったりすることで、生命の尊さを実感します。



生命の尊さ講座

(2) 自己表現力の向上を目指して

普段の生活の中では人間関係が固定化してしまい、それが原因で自己を表現することに抵抗を持つ子どももいます。そこで児童、教職員を対象に、劇作家の平田オリザ氏による演劇的手法を活用したワークショップを実施し、コミュニケーション能力を培い、自己表現力と他の人の理解力の向上を図っています。



平田オリザ氏によるワークショップ

(3) 毎月 11日は「ほめほめデー」

子どもたちが自分の良さに気づき、いのちを大切にする気持ちをはぐくむためには、就学前からの自尊感情を高めることが大切です。本市では、毎月 11 日を「いいこといっぱい見つけようほめほめデー」として、子どもたちの良いところをたくさんほめて、自尊感情を高める取組を行っています。



「ほめほめデー」の一こま(幼稚園)

4 宝塚市デジタルアーカイブ

社会教育部門では、公益財団法人図書館振興財団からの助成金を活用して、市民の貴重な財産である歴史資料や文化財資料を「宝塚市デジタルアーカイブ」として本年度整備します。

デジタルアーカイブはデータ収蔵庫の役割を果たし、オンライン上で誰でも自由に閲覧することができ、自主学习や二次利用が可能になります。さらにデジタル化は、災害等での資料の劣化、消失に備えた複数媒体での保存・継承につながります。

デジタル化する資料としては①宝塚市史 ②市指定文化財となっている古絵図 ③明治期から膨大な絵はがき ④「たからづか文化財さんぽマップ」などがあります。将来的にはこれらの資料は学校でのタブレットを使った授業でも活用していきたいと考えています。

5 終わりに

これからの「超スマート社会 (Society5)」の到来に向けて、新しい教育のあり方を模索していくことが重要です。本市では、そうした教育の課題や成果を保護者や市民にオープンにし、社会総がかりで子どもを育む機運を今以上に高めていきます。市民全体で子どもを応援することが、生涯を通じて学ぶことができる環境を充実させ、「自分を大切に 人を大切に ふるさと宝塚を大切にする人づくり」につながっていくものと考え、宝塚の教育活動を行っていきます。